科目名	助産論Ⅳ(周産期ハイリスクケア) Midwifery Ⅳ	担当教員 (研究室番号)	岩田 朋美（101） 大平 肇子（104） 杉山 泰子（103） 市川 陽子（105） （非常勤）	教員への連絡方法 （メールアドレス）	

履修年次	4年次 前期	科目区分	専門科目・生涯看護学	選択区分	自由	単位数 (時間)	1(15)	授業形態	演習	科目等履修生	否
										ｵｰﾌﾟﾝｸﾗｽ	否

科目目的	ハイリスク妊産婦・新生児、ならびに異常発生時の産婦と新生児への支援を理解し、助産の実践に必要な基本的技術を修得する。また、助産管理の基本概念を理解し、助産業務を自律して遂行する能力を養う。	
ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ（DP）	主要なDP	E　地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。（思考・判断）
	関連するDP	D　様々な職種との連携において、看護専門職者としての役割を理解し、多職種による 協働活動に参加できる。（技能・表現）
到達目標	１．産科救急対応における助産実践について説明することができる。 ２．産科手術および産科的医療処置とその助産ケアについて説明することができる。 ３．周産期の心理・社会的ハイリスク対象者への助産実践について説明することができる。 ４．ハイリスクな状態にある周産期の対象者のアセスメントができ、助産ケアについて説明することができる。 ５．周産期医療におけるリスクマネジメントについて説明することができる。	

成績評価方法 (基準)	筆記試験（60%）、演習課題（25%）、演習への取り組み（15%）
再試験の有無と基準等	無：複数回の筆記試験・演習課題および演習への取り組みにより評価するため、科目の合否結果で不合格となった場合、再試験は実施しない。
教科書	助産学講座１・６～８・10（医学書院） 助産業務ガイドライン2019（日本助産師会出版）
参考書等	必要時、紹介します。
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	周産期の対象における環境・状況は変化しており、助産師が周産期ハイリスクケアに関わる機会は増加しています。また、助産師には、周産期における助産実践の質向上と安全の保証が求められています。周産期ハイリスクケアにおける助産師の役割を理解し助産実践につなげられるよう、積極的な姿勢で演習課題に取り組むことを期待します。
備考	助産師国家試験受験資格取得のための必須科目です。助産論Ⅰ・Ⅱの単位を修得していることが履修の前提となります。３年次の終了時までに修得すべき授業科目の単位をすべて修得していなければ履修することはできません。

回	学習項目	学習内容	主担当教　員	授業方法
１回	産科救急対応における助産実践	産科危機的出血への対応と助産ケアについて学ぶ。 産科DICへの対応と助産ケアについて学ぶ。	岩田	講義
２回	産科手術および産科的医療処置の実際①	急速遂娩のための産科手術および産科的医療処置に必要な知識・技術について学ぶ。	非常勤講師	演習
３回	産科手術および産科的医療処置の実際②	急速遂娩のための産科手術および産科的医療処置の実際を学ぶ。	非常勤講師	演習
４回	周産期の心理・社会的ハイリスク対象者への助産実践①	周産期のメンタルヘルスおよび社会的ハイリスクにおける助産ケアの実際を学ぶ。	岩田/学外協力者	演習
５回	異常発生時における助産実践①	妊娠期の異常発生時における助産実践について学ぶ。 ・シミュレーション演習	岩田 他	演習
６回	異常発生時における助産実践②	分娩期の異常発生時における助産実践について学ぶ。 ・シミュレーション演習	岩田 他	演習
７回	異常発生時における助産実践③	分娩期の異常発生時における助産実践について学ぶ。 ・シミュレーション演習	岩田 他	演習
８回	周産期医療におけるリスクマネジメント	助産業務管理におけるリスクマネジメントについて学ぶ。 周産期管理システムおよび病院・診療所の助産管理について学ぶ。	岩田	講義

学　習　課　題
5～7回：あらかじめ事例を提示する。事例を理解するために、必要と思われる自己学習をすること。

実務経験を活かした教育の取組
担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。また、学外講師・学外協力者は、医師（産婦人科医師）・助産師として実務に携わっており、医学・看護学の実践及び教育・研究活動の経験を活かして本授業の演習を行う。